

Y Mアセット・優良米国株ファンド

愛称：トリプル維新（プレミア合衆国）

追加型投信／海外／株式

信託期間：2017年4月21日 から 2022年4月20日 まで
決算日：毎年1、4、7、10月の各20日（休業日の場合翌営業日） 基準日：2019年11月29日
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

「基準価額・純資産の推移」

2019年11月29日現在

基準価額	10,801 円
純資産総額	30億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+4.5 %
3か月間	+10.6 %
6か月間	+12.1 %
1年間	+8.0 %
3年間	-----
5年間	-----
年初来	+22.0 %
設定来	+33.8 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（8ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

（1万口当たり、税引前）

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/07)	300円
第2期 (17/10)	350円
第3期 (18/01)	400円
第4期 (18/04)	300円
第5期 (18/07)	350円
第6期 (18/10)	300円
第7期 (19/01)	10円
第8期 (19/04)	300円
第9期 (19/07)	10円
第10期 (19/10)	10円

分配金合計額 設定来：2,330円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入ファンド		合計99.0%
ファンド名	運用会社名	比率
次世代米国代表株ファンド	三菱UFJ国際投信	99.0%
マネープールファンド	三菱UFJ国際投信	0.003%

※ファンド名は「（FOFs用）」および「（適格機関投資家限定）」を省略しています。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。10ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

「次世代米国代表株ファンドの運用状況」

※三菱UFJ国際投信が提供するデータ等を基にワイエムアセットマネジメントが作成したものです。

資産別構成

資産	比率
実質外国株式組入比率	95.8%
内 現物	95.8%
内 先物	0.0%
短期金融資産	4.2%
合計	100.0%

株式 業種別構成

合計100.0%

業種名	比率
情報技術	20.8%
資本財・サービス	19.9%
金融	14.3%
ヘルスケア	13.0%
一般消費財・サービス	12.4%
生活必需品	8.9%
コミュニケーション・サービス	5.1%
エネルギー	4.4%
素材	1.1%

組入上位10銘柄

合計52.9%

(組入銘柄数: 30銘柄)

銘柄名	業種名	比率
BOEING CO/THE	*ボーイング	資本財・サービス
APPLE INC	*アップル	情報技術
CATERPILLAR INC	*キャタピラー	資本財・サービス
UNITEDHEALTH GROUP INC	*ユナイテッドヘルス・グループ	ヘルスケア
MCDONALD'S CORP	*マクドナルド	一般消費財・サービス
VISA INC-CLASS A SHARES	*ビザ	情報技術
GOLDMAN SACHS GROUP INC	*ゴールドマン・サックス・グループ	金融
MICROSOFT CORP	*マイクロソフト	情報技術
3M CO	*3M	資本財・サービス
AMERICAN EXPRESS CO	*アメリカン・エクスプレス	金融

※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。

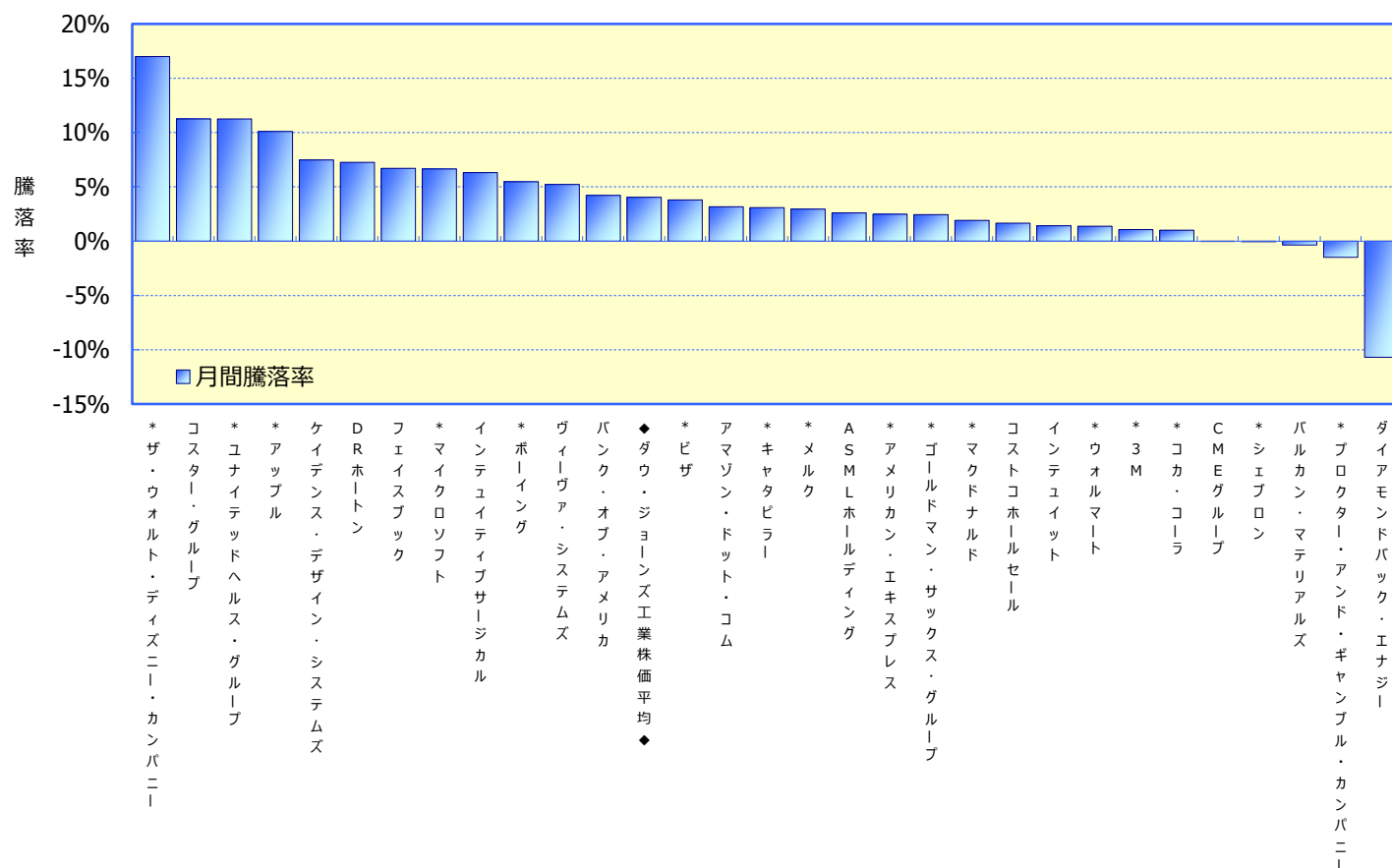
※資産別構成、組入上位10銘柄は、株式ポートフォリオ（現金含む）に対するものです。

※株式 業種別構成は、現物株式評価額に対するものです。

※株式 業種別構成および組入上位10銘柄の業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。

※「*」付き銘柄名称は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄を表します。

【参考】組入全銘柄およびダウ・ジョーンズ工業株価平均の月間騰落率



(出所：Bloombergのデータ（Composite）を基にワイエムアセットマネジメント作成)

※上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄は、当ファンドが基準日時点で組み入れている銘柄であり、保有期間等を考慮したものではありません。

※各銘柄およびダウ・ジョーンズ工業株価平均の騰落率は、1ヶ月間の騰落率（米ドルベース）です。

※上記データは、参考のために簡便的に計算したものであり、その正確性、完全性等を保証するものではありません。また、当ファンドへの寄与度、運用成果とは異なります。

※「*」付き銘柄名称は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄を表します。

投資環境

【金融緩和姿勢等を好感し、上昇】

米国株式市場は上昇しました。10月末に米連邦公開市場委員会（FOMC）が利下げを決定したことが好感されたほか、米高官による米中貿易協議の進展を示唆する発言を受け、両国の関係改善に対する期待が広まったことなどを背景に、株価は堅調に推移しました。為替市場については、円安米ドル高が進みました。

運用経過

【ほぼ参考指数なみの運用成果】

（１）運用成果とその要因

当ファンドの基準価額は上昇となり、ほぼ参考指数なみの運用成果となりました。参考指数構成銘柄である「HOME DEPOT INC」の非保有などがプラス要因となる一方で、やはり参考指数構成銘柄である「WALT DISNEY CO/THE」の非保有などがマイナス要因となりました。

（２）売買動向

足元で起こっている構造変化や株価水準を考慮し、以下の銘柄入替を行いました。コミュニケーション・サービス業種において、「VERIZON COMMUNICATIONS INC」の売却を行う一方で、総合娯楽企業の「WALT DISNEY CO/THE」の組み入れを行いました。また、金融業種においては、「MSCI INC」の売却を行い、デリバティブ取引所運営を行う「CME GROUP INC」を組み入れました。

今後の運用方針

【レンジ内相場を予想】

（１）基本スタンス

主要国の中央銀行が総じて金融緩和的な姿勢を維持していることが、市況の下支え要因になるとみています。米中貿易摩擦を巡っては依然として不透明感が払拭されず、世界経済の先行きへの不安は投資家心理の重石となっています。しかしながら、米国の景気と企業業績については顕著な落ち込みはみられず、堅調な個人消費に支えられ、巡航速度の成長を遂げていると思われます。米国の実体経済は相対的に堅調であり、また中国などでも景気浮揚策を打ち出していることなどから、米国およびグローバルな景気の顕著な落ち込みの可能性は低いと思われます。株価水準面でも極端な割高感はないことなどを考え合わせますと、米中問題が市況の上値を抑える材料とはなるものの、下値自体は限定的と思われます。

（２）注目する業種・分野など

当ファンドは、米国特有の大きなイノベーションが起こっている分野に注目し、変化に機動的に対応し、恩恵を受け得る新しい次世代企業に投資します。現在は、米国の強みでもあるインターネット、医療機器等の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しています。インターネット企業については業績未達の企業も一部みられますが、需要の高まりという大きな流れに変化はないと考えています。医療機器分野は、ロボット手術の普及や新しい治療機器が従来の医療に革新的な変化をもたらしつつあり、今後の成長が期待されます。同時に、伝統的な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応し続けている優良企業にも目を配っています。また、大型減税とその後の金利引き下げによる波及効果やインフラ投資から恩恵を受け得る銘柄にも注視しつつ運用を行い、投資リターンの獲得をめざします

参考指数はダウ・ジョーンズ工業株価平均（円換算ベース）です。

ダウ・ジョーンズ工業株価平均（ダウ工業株30種）とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY（ニューヨーク）ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。ダウ・ジョーンズ工業株価平均（円換算ベース）は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均をもとに、委託会社が計算したものです。

※コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

※また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行なわれない場合があります。

※表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

組入株式全銘柄コメント

※以下は、次世代米国代表株ファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）に関するコメントです。

	銘 柄	概 要
1	BOEING CO/THE (ボーイング)	航空機の開発・製造を行う企業です。商業用ジェット旅客機を開発・製造し、関連サポートサービスとともに世界の民間航空会社に提供しています。また、軍用の飛行機、ヘリコプター、衛星、ミサイル等を含む軍事関連システムの開発・製造も行っています。参入障壁が高い同分野において、独自の技術を活かし、収益を伸ばしています。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
2	APPLE INC (アップル)	大手のパソコン、スマートフォンメーカーです。世界的な一大ブームとなった携帯デジタル音楽プレーヤー「iPod」を手始めに、「iPhone」、「Apple Watch」、「iPad」等のヒット商品を次々に生み出しています。「iPhone」ユーザーが生み出す、巨額のサービス収入が業績の安定成長につながっています。自社株買い等、株主還元にも積極的です。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
3	CATERPILLAR INC (キャタピラー)	世界首位の重機メーカーです。主力製品は資源開発・建設業者向けの油圧ショベル、ブルドーザー、工業用エンジン等です。過去数年にわたる厳しい業界環境下、コスト削減等を通じて効率的なオペレーションを構築しています。北米や中国の建機需要が回復すれば、その恩恵を大きく受けるものと思われます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
4	UNITEDHEALTH GROUP INC (ユナイテッドヘルス・グループ)	傘下の「ユナイテッド・ヘルスケア」は、消費者向けの医療給付、退職者を対象とした高齢者向けの健康管理サービス等を提供しています。また傘下の「OPTUM」は、医療従事者向けのサポートサービスを行っています。高齢人口の増加に伴い、医療関連のニーズが高まりつつあり、同社の業容拡大余地は大きいと思われます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
5	MCDONALD'S CORP (マクドナルド)	ハンバーガーチェーン大手です。短時間で気軽に食事を楽しむファストフードの先駆的企業として知られています。同社は一時、既存店売上が伸び悩む等、厳しい事業環境に直面したこともありましたが、朝食メニューを終日提供に拡大する等の改善策を行っています。今後もコスト削減やモバイルアプリ経由の注文、決済を導入する等、再び成長路線へ回帰することが期待されます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
6	VISA INC-CLASS A SHARES (ビザ)	クレジットカード、デビットカードを中心に、世界的規模で決済技術を提供しています。同社の小売り電子支払いネットワークは、技術力と規模をベースに高い競争力を有しています。現金、小切手等の旧来型の支払い手段から、クレジットカード支払いへの移行の恩恵を受けるのみならず、モバイル、Eコマース等の新規成長分野においても事業拡大が期待されます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
7	GOLDMAN SACHS GROUP INC (ゴールドマン・サックス・グループ)	銀行持株会社大手です。投資銀行業務、法人・金融機関・投資ファンド・政府等への金融サービス、投融資、投資運用業の4つを中心に全世界で業務を展開しています。米国の経済成長や金融規制緩和の恩恵も受けると思われます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
8	MICROSOFT CORP (マイクロソフト)	大手ソフトウェアメーカーです。パソコン用基本ソフトウェア、業務用ソフトウェアで高い市場シェアを持っています。また、ゲーム機、データベース等、多岐にわたる製品を提供していることに加え、近年では、顧客基盤を生かしたクラウドサービス事業が大きく拡大しています。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
9	3M CO (3M)	「ポスト・イット」などの接着剤を発明し、化学製品を中心とした広範な製品、地域に事業を展開しているコングロマリット企業です。テクノロジー、製造設備、ブランド名、販売網、その他の経営資源を全社的に共有することでコングロマリットの強みを発揮しています。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
10	AMERICAN EXPRESS CO (アメリカン・エクスプレス)	AMEXブランドで有名なクレジットカード会社です。高所得者を中心にアメリカン・エクスプレス・カードを発行し、会員向けに金融、旅行手配、保険などの総合金融サービスを展開しています。米国景気の拡大、キャッシュレス化の動きなどの恩恵を受けると考えられます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）

※上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

※また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行なわれない場合があります。



ワイエムアセットマネジメント

※10ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

組入株式全銘柄コメント

※以下は、次世代米国代表株ファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）に関するコメントです。

	銘 柄	概 要
11	CHEVRON CORP (シェブロン)	石油メジャーの一角です。川上（石油・天然ガスの探査・開発等）から川下（精製・販売等）まで総合的に事業を手掛けています。株主への配当の維持・成長を重視する企業です。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
12	AMAZON.COM INC (アマゾン・ドット・コム)	オンライン商取引を行う企業です。書籍関連から事業を開始し、DVD、家電製品等へと取扱品目を拡げてきました。オンラインを通じたコンテンツ配信、電子書籍「kindle」の発売等の事業も手掛けています。データセンター運営も行っており、ビッグデータ関連銘柄としても注目されています。Amazonプライム特典の充実化にも尽力し、会員数の拡大に努めています。
13	BANK OF AMERICA CORP (バンク・オブ・アメリカ)	銀行大手です。金融関連の商品・サービスを幅広く提供しています。海外にも拠点を保有しており、グローバルな事業展開を行っています。また、経費削減などで収益基盤を強化しています。
14	PROCTER & GAMBLE CO/THE (プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー)	日用品メーカー大手です。多彩なブランドを展開し、洗剤、清掃用品、紙製品、美容製品などを世界各地で販売しています。ブランド力が強いことでも知られています。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
15	DR HORTON INC (DRホートン)	住宅建設大手です。米国南部を中心に営業展開を行っており、幅広い住宅ニーズに対応しています。住宅ローンなどの金融サービスも手掛けており、業績拡大が期待されます。
16	WALT DISNEY CO/THE (ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー)	ディズニーランド経営で有名な総合娯楽企業です。テーマパーク以外にもメディア・ネットワーク、映画製作などを手掛けます。インターネット普及によりメディア・コンテンツの配信手段が多様化する中、同社の保有するコンテンツの価値は高まりつつあります。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
17	MERCK & CO. INC. (メルク)	製薬会社大手です。多数の疾病分野にて医薬品を開発し、製造・販売しています。近年は、がん免疫治療薬の開発に成功しており、新たな成長の牽引役として期待されます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
18	WALMART INC (ウォルマート)	小売スーパー・チェーンです。ディスカウントストア、スーパーセンター等の店舗を運営しています。1960～1970年代に「エブリデイ・ロープライス」を掲げ、徹底したローコスト経営で急成長しました。近年は、米国中心に不採算店舗を閉鎖する一方で、ネット通販への進出を加速させる等、事業の再構築に取り組んでいます。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
19	CME GROUP INC (CMEグループ)	多様性に富んだデリバティブ取引市場として、株式インデックス、為替、穀物、金属による先物・オプション等を幅広く提供しています。また、上場ならびに店頭デリバティブ取引の決済・クリアリングサービスも提供しています。金融取引の透明性がますます求められる中、同社の提供する取引市場関連サービスへの需要は高まることが予想されます。
20	CADENCE DESIGN SYS INC (ケイデンス・デザイン・システムズ)	半導体・電子回路の設計（EDA）ツールの開発を行っています。モバイル、クラウド、自動車、航空向けの開発ツール等に強みを持っています。半導体開発の重要な部分を担っており、今後の成長が期待されます。

※上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

※また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行なわれない場合があります。



ワイエムアセットマネジメント

※10ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

組入株式全銘柄コメント

※以下は、次世代米国代表株ファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）に関するコメントです。

	銘 柄	概 要
21	FACEBOOK INC-CLASS A (フェイスブック)	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を提供する企業です。実名登録によりネットで交流するサービスに特徴があり、企業のマーケティング向け広告に活用されています。画像共有アプリのインスタグラムなど事業範囲も拡がり、成長が続いています。
22	INTUITIVE SURGICAL INC (インテュイティブサージカル)	高度外科手術システムと関連機器、アクセサリ等の開発を手掛けています。同社の外科手術システムは、従来の開腹手術と比べ、より高い施術精度が得られる他、傷口が小さく患者への負担が少ない等の利点を備えています。
23	VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A (ヴィーヴァ・システムズ)	ライフサイエンス業界向けにソフトウェアを提供する企業です。顧客管理、コンテンツ管理などのソフトウェアを、革新的なクラウドベースのかたちで提供しています。ライフサイエンス関連顧客のニーズを的確に把握することでも定評があり、収益を伸ばしています。
24	COCA-COLA CO/THE (コカ・コーラ)	飲料メーカー大手です。多数の飲料を製造し、世界各国で事業を展開しています。炭酸飲料とジュースの販売額が大きく、各国地域の提携先ボトラーに原液を供給し、製品の企画開発や広告とマーケティングを行います。（ダウ・ジョーンズ工業株価平均の構成銘柄）
25	COSTAR GROUP INC (コスター・グループ)	商業不動産業界に建物専門情報を提供しています。事務用・工業用不動産の詳細な情報、ビルのデジタル画像や見取り図が記載された顧客にとり有用なデータを保有していることから、今後の収益拡大が期待されます。
26	COSTCO WHOLESALE CORP (コストコホールセール)	会員制倉庫型店舗を展開しています。食品、自動車用品、玩具スポーツ用品等の商品を低価格で提供しています。米国中心の店舗展開を行っていましたが、英国、日本、台湾等にも進出しており、海外事業が新たな収益源として期待されます。
27	ASML HOLDING NV-NY REG SHS (ASMLホールディング)	半導体製造装置メーカーです。特にリソグラフィーによるチップ製造向け機械を開発、製造、そして販売しています。世界各地で事業を展開し、高い市場シェアを握っています。単価の高い極端紫外線（EUV）リソグラフィー・システムの販売拡大が、増収増益に寄与することが期待されます。
28	VULCAN MATERIALS CO (バルカン・マテリアルズ)	建設資材会社です。砕石、砂利等の建設用骨材、アスファルトや生コン等の建設資材を扱います。東海岸から西海岸にかけての南部沿岸部で事業を展開しています。同社は、米国景気の全般的な拡大、予想されるインフラ投資増大の恩恵を大きく受けると考えられます。
29	INTUIT INC (インテュイット)	会計ソフト大手です。個人向け確定申告ソフト、中小企業向けソフトさらには個人資産管理ツール等を主力製品として開発、販売しています。同分野は、参入障壁が高い分野でもあり、利益の伸びが期待されます。
30	DIAMONDBACK ENERGY INC (ダイヤモンドバック・エナジー)	独立系石油・天然ガス会社です。テキサス州西部パーミアン盆地の非在来型の陸上油田、天然ガス田の取得、開発、探査および採掘を手掛けます。シェールオイルの生産拡大により、収益を伸ばしています。

※上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

※また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行なわれない場合があります。



ワイエムアセットマネジメント

※10ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

「ファンドの目的・特色」

ファンドの目的

- 米国の株式を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得を通し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 投資信託証券への投資を通じて、主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資します。
 - ◆ニューヨーク証券取引所に上場している企業および NASDAQ^{※1} に登録されている企業の株式を投資対象とします。
 - ◆為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。
 - ◆NY ダウ^{※2} における構成銘柄を参考にポートフォリオの構築を行ないます。
 - ◆今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、30 銘柄程度に投資を行ないます。
- ※1 NASDAQ とは、National Association of Securities Dealers Automated Quotations の略称で、米国の店頭ディーラーが売買値を提示し取引を行なうコンピューター・ネットワーク・システムのことです。店頭銘柄の代表的取引方法であり、このシステムを通じて売買される銘柄を NASDAQ 登録銘柄と称しています。
- ※2 NY ダウとは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する 30 銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「ダウ・ジョーンズ工業株価平均」、「ダウ工業株 30 種」などと呼ばれています。なお、同指数はファンドのベンチマークではありません。

2. 年 4 回決算を行ない、基準価額に応じた分配金の支払いをめざす、分配金額をあらかじめ提示する「予想分配金提示型」ファンドです。
 - ◆毎年 1、4、7、10 月の各 20 日（休業日の場合、翌営業日）に決算を行ない分配金の支払いをめざします。
 - ※基準価額は 1 万口当たりとし、既払分配金を加算しません。
 - ◆計算期末の前営業日の基準価額に応じ、下記の金額の分配をめざします。

計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
10,500円未満	配当等収益の水準を考慮して決定した額
10,500円以上11,000円未満	300円
11,000円以上11,500円未満	350円
11,500円以上12,000円未満	400円
12,000円以上12,500円未満	450円
12,500円以上	500円

※計算期末の直前から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。

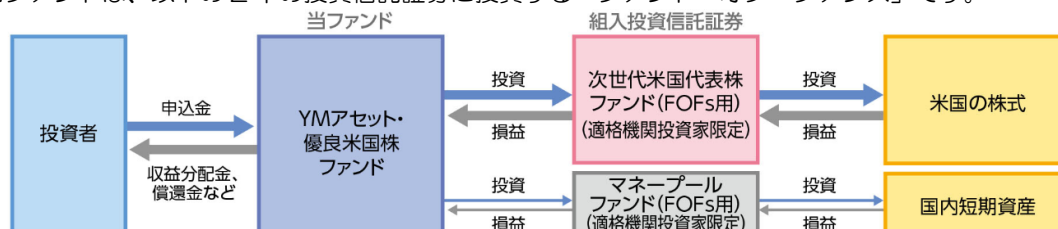
※基準価額に応じて、四半期ごとの分配金額は変動します。基準価額が上記の一定の水準に一度でも到達すればその水準に応じた分配を続ける、というものではありません。

※分配により基準価額は下落します。このため、次期以降の分配金額は変動する場合があります。

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※ファンドの基準価額は変動します。投資元本、利回りが保証されているものではありません。

3. 当ファンドは、以下の 2 本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。



- ◆組入投資信託証券の運用については、三菱 UFJ 国際投信株式会社が行ないます。
- ◆投資信託証券の組入比率は、通常の状態では「次世代米国代表株ファンド（FOFs 用）（適格機関投資家限定）」への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ◆大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色 1. の運用が行なわれないことがあります。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

「投資リスク」

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

「ファンドの費用」

お客さまが直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 ＜上限＞2.2%（税抜 2.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用（信託報酬）	年率 0.9625% （税抜 0.8750%）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了の時に信託財産中から支弁します。
投資対象とする投資信託証券（注 1）	年率 0.5775%（税込）	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	年率 1.54%（税込）程度	
その他の費用・手数料	（注 2）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注 1）ファンドが投資対象とする投資信託証券のうち信託報酬が最大のものを表示しています。

（注 2）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合せください。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



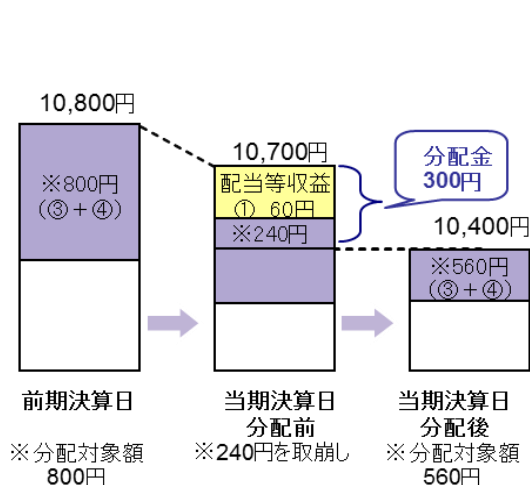
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



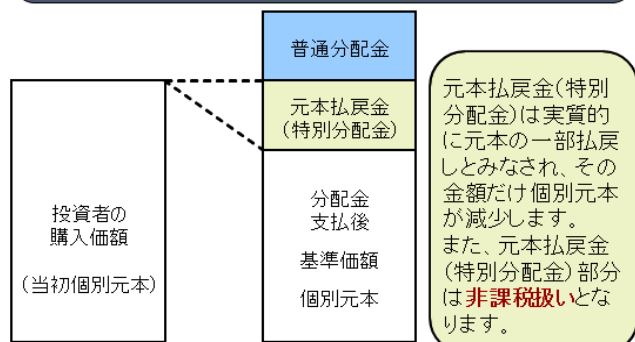
前期決算日から基準価額が下落した場合



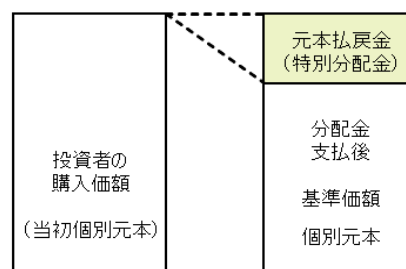
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

「当資料のお取り扱いにおけるご注意」

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社
083-223-7124（営業日の 9:00～17:00）

当社ホームページ

▶ <http://www.ymam.co.jp/>

「販売会社」

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会	
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。